

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 20 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20500657

研究課題名（和文） 保育現場に根ざす新しいカウンセリングモデルの開発
－保育カウンセラーの機能と役割－研究課題名（英文） Development of the new counseling model in the field of child care
－Function and role of child care counselor－

研究代表者

富田 久枝 (TOMITA HISAE)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：90352658

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：保育・子育て

1. 研究計画の概要

(1) 研究の目的

- ①保育現場における保育カウンセラーのニーズ、実態の全国レベルでの把握
- ②発達支援・育児支援（個別）における保育カウンセラーの機能と役割の検討
- ③保育現場における子ども・保護者・保育者対象とした心理教育における保育カウンセラーの機能と役割
- ④援助的・治療的カウンセリングおよび教育的・開発的カウンセリングの2側面から地域や他機関との連携における保育カウンセラーの機能と役割

(2) 研究計画

- ①文献による検討（1年目～3年目）
- ②先駆事例（援助・治療的カウンセリングの検討）面接調査他（1年目～3年目）
- ③先駆事例の検討（教育・開発的カウンセリングの①検討）参与観察等（1年目～3年目）
保育カンファレンスの実施と保育者への心理教育の意義と価値の検討
（1年目～3年目）
- ⑤行政レベルにおける取組の現状調査
（1年目～3年目）
- ⑥心理教育プログラムの開発と検証
（1年目～3年目）
- ⑦発達相談における保育者の成長：ビデオ自己評価法の効果と活用可能性の検討
（1年目～3年目）
- ⑧保育カウンセリングの援助モデルの構築
- ⑨研究の成果のまとめ（報告書の作成）

2. 研究の進捗状況

3年間の研究の進捗状況は、概ね目的とする調査は実施でき、現在分析中である。研究の範囲が広いことと、地域による格差が大き

く、どの地域でも未だ発展途上の取り組みのため、先駆事例の検討が中心となり、スタンダードモデルの構築まではもう少し時間が掛るものと考えられる。昨年度までの3年間は実践を行う、先駆事例を調査する、文献を検索してその方向性をまとめるといった調査段階で、残りの1年間でまとめを行う予定である。

3. 現在までの達成度

②概ね順調に進展している。

（理由）

保育カウンセリングに関する文献は少ないため、文献研究の達成度は70%程度と評価できる。また、先駆事例の収集では大阪府・浦安市・日野市のカウンセラー制度や愛媛県の発達支援室の取り組み、インタビューや実態調査を実施し達成度は80%である。教育的・開発的カウンセリングの必要性とその効果の検討では構成的グループエンカウンターを活用可能性の検討を行い達成度は85%である。援助的・治療的カウンセリングのアプローチとし発達相談の方法について検討はビデオカンファレンスという方法に関して実践からその効果を分析中で達成度は80%である。以上の理由から概ね順調に進展していると判断した。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 文献研究

保育カウンセリングやカウンセラーに関する文献は概ね収集できたので、今後はこの文献の内容を要約して方向性をまとめる。

(2) 事例の検討

3年間で本研究に必要な情報は概ね収集できたが、まだ、地域の諸機関との連携の模索

や先駆事例以外の事例の収集もまとめには必要である。今後は、これまでのデータのまとめを行う一方で、地域の諸機関との連携の在り方を幾つかの市町村を対象に調査を実施して、本研究で目指す「新しいカウンセリングモデル」の方向性を示したいと考える。

(3) まとめの推進

まとめとして、報告書を作成する。研究分担者と執筆分担を行い、6ヶ月程度をかけて章立てや内容の配分及び執筆を行い、まとめとしていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

冨田久枝、子どもの健全育成に関する児童館の価値機能の研究、児童研究、89巻、29-35、2010年、査読有り

〔学会発表〕(計8件)

冨田久枝、教育カウンセリングの知見や手法を用いた育児・保育支援を考える、日本教育カウンセリング学会第8回研究発表大会(自主シンポジウム、企画・発表)、2010年10.30、跡見学園女子大学

冨田久枝・高垣マユミ・星野自子、特別支援教育の導入における学校教育現場に教師が感じている現状と課題、日本カウンセリング学会第43回大会、2010年9.4、文教大学越谷校舎

冨田久枝、保育現場におけるカウンセリングの活用と保育者研修、日本保育学会第63回大会(自主シンポジウム)2010年5.23、松山東雲女子大学(短期大学)

冨田久枝、乳幼児を対象とした箱庭の教育的活用とその可能性、日本保育学会第63回大会、2010年5.22、松山東雲女子大学(短期大学)

冨田久枝、保育カウンセリングに教育心理学は何が貢献できるのか Part2ーカウンセラー・保育者といった支援者の支援という視点を中心にー、日本教育心理学会第51回総会(自主シンポジウム)、2009年9.21、静岡大学

冨田久枝、保育者のメンタルヘルスと保育カウンセリング、日本保育学会第62回総会、2009年5.18、千葉大学

冨田久枝、保育カウンセラーによる発達支援の現状ーこれからの保育現場におけるカウンセリングを求めてー、日本カウンセリング学会第41回大会、2008年11.24、筑波大学附属高等学校

冨田久枝、ビデオ保育カンファレンスによる保育者の成長Ⅱー保育者の語りからの分析ー、日本教育心理学会第50回総会、2008

年10.21、東京学芸大学

〔図書〕(計5件)

冨田久枝、プロとしての保育者論 6章1節「保護者に信頼される保育者になるために」、保育出版社、2011年、総ページ数194p(第6章 pp.100-104)

冨田久枝(監修)、保育士合格テキスト 09年版、成美堂、2009年、総ページ数303p(精神保健 pp.120-137)

冨田久枝、教育・保育・施設実習の手引き、建帛社、2009年、総ページ563p

(第4章 pp.7-74、第5章 pp.192-197)

冨田久枝・金田利子編著、保育カウンセリングの原理、ナカニシヤ出版、2009年、総ページ225p

(第1章 pp.1-23、第4章 pp.133-151)

冨田久枝、カウンセリング心理学事典、誠心書房、2008年、総ページ563p

(I V-1 pp.108-109、I V-7 pp.118-119、-23 pp.148-149、I V-24 pp.150-151、-26 pp.153-154)